

資料 4

科学技術・学術審議会 研究計画・評価分科会
安全・安心科学技術委員会（第10回）H19. 6. 29

子どもの被害防止の実証的基盤

科学警察研究所
原田 豊

子どもの被害防止：現状の問題点

- 実態把握ができていない
 - ▶ 警察統計は氷山の一角、しかし代替指標はない
 - ▶ 自主防犯活動の全体像を誰も知らない
- 『何が役立つか』がわかっていない
 - ▶ 効果測定のための指標・尺度がない
 - ▶ 厳密なデザイン(例：ランダム割付実験)による評価研究がない
 - ▶ そもそも、その必要性が認識されていない
 - 研究面では・・・「新技術」の「実証実験」に偏りがち
 - 実践現場では・・・「実施主体によって内容がまちまち」

最大の問題＝「この分野はこんなもの」という決めつけ？

欧米では：犯罪学の教科書に・・・

出典：Siegel, L. J. 1986. *Criminology*. West Publishing Company. 3

米国の“Measures of Crime”

- Official Statistics:
 - ▶ Uniform Crime Report (UCR)
 - ▶ FBIによる犯罪統計。日本の警察庁による「平成〇〇年の犯罪」に相当。
 - Victimization Surveys:
 - ▶ National Crime Victimization Survey (NCVS)
 - ▶ 全米から世帯単位でサンプリングされた12歳以上の人が対象。
 - ▶ サンプル数: 43,000世帯に住む77,750人(1999調査)。
 - ▶ 半年ごとに1/6を入れ替えて継続。1973年から。
 - Self-report Surveys
 - ▶ 例: “National Youth Survey”
- ☆ “Sourcebook of Criminal Justice Statistics”
- ▶ 米国の刑事司法関係の公的統計を集約。
 - ▶ ニューヨーク州立大学オーバニー校で編集。1973年から。

“NCVS Online”

Bureau of Justice Statistics Criminal Victimization in the United States - Statistical Tables - Netscape 6

ファイル(F) 編集(E) 表示(V) 検索(S) ジャンプ(G) ブックマーク(B) タスク(T) ヘルプ(H)

http://www.ojp.usdoj.gov/bjs/abstract/cvusst.htm 検索

ホーム My Netscape.co.jp 検索 Shop@AOL ブックマーク 新着 お勧め メンバーズ

BJS U.S. Department of Justice
Bureau of Justice Statistics

BJS home page **Criminal Victimization in the United States - Statistical Tables**

Publications

What's new

Relevant topics

- Criminal victimization**
- Victim characteristics**
- Characteristics of crime**

Presents detailed data on major variables measured by the National Crime Victimization Survey (NCVS). These variables are --

- crimes of violence (rape, sexual assault, robbery, assault) and theft (pocket picking, purse snatching, burglary, theft, and motor vehicle theft), with data on victim characteristics (sex, age, race, ethnicity, marital status, education, income, and residence)
- crime characteristics (time and place of occurrence, distance from home, weapon use, self-protection, injury, medical care, economic loss, and time lost from work)
- victim-offender relationship
- victims' perceptions of substance use by offenders and of offender characteristics (age, race, and sex)
- whether crimes were reported to the police and reasons why
- police response time for reported crimes

These statistical tables are available only in electronic formats. A list of all reports in this series that were printed is provided on the publications page.

Complete set of tables:

- 1999: Acrobat file (701K) | Spreadsheets (zip format) (308K)
- 1998: Acrobat file (467K) | Spreadsheets (zip format) (283K)
- 1997: Acrobat file (483K) | Spreadsheets (zip format) (284K)
- 1996: Acrobat file (484K) | Spreadsheets (zip format) (284K)

Demography of victims

- 1999: Acrobat file (221K) | Spreadsheets (zip format) (86K)
- 1998: Acrobat file (132K) | Spreadsheets (zip format) (66K)
- 1997: Acrobat file (131K) | Spreadsheets (zip format) (64K)
- 1996: Acrobat file (132K) | Spreadsheets (zip format) (64K)

Victims and offenders

- 1999: Acrobat file (126K) | Spreadsheets (zip format) (82K)
- 1998: Acrobat file (122K) | Spreadsheets (zip format) (60K)
- 1997: Acrobat file (123K) | Spreadsheets (zip format) (60K)
- 1996: Acrobat file (100K) | Spreadsheets (zip format) (60K)

Geography

トキメント:完了(3秒)

評価研究に関しては・・・

- 『科学的根拠に基づく犯罪予防』(2002)

- ▶ “Preventing Crime: What Works?” (1997)を拡充
- ▶ 米国・英国の600以上の防犯施策の評価研究をレビュー
- ▶ 何が有効か (“What works?”)に関する科学的知識を、政策決定者に理解可能な形で提示

Sherman, L. W., D. Gottfredson, et al. (1997). Preventing Crime: What Works, What Doesn't, What's Promising. Washington, D.C., National Institute of Justice, U.S. Department of Justice.

Sherman, L. W., D. P. Farrington, et al., Eds. (2002). Evidence-Based Crime Prevention. London, England, Routledge.

Evidence-Based Crime Prevention

Edited by

Lawrence W. Sherman,

David P. Farrington, Brandon C. Welsh

and Doris Layton MacKenzie



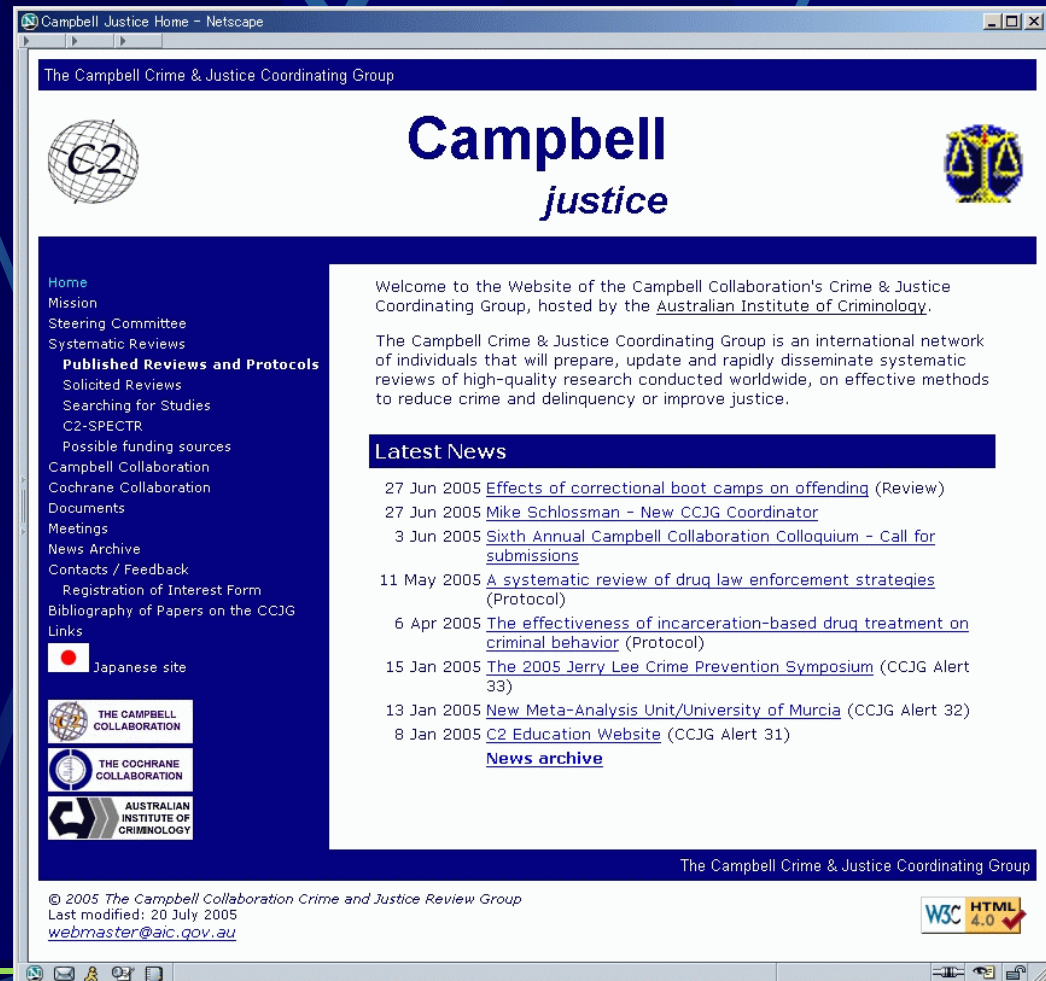
「メリーランド式科学的方法尺度」

- レベル1:
 - ▶ 一つの時点における予防プログラムと犯罪の測定指標との相関を検討しているもの
- レベル2:
 - ▶ あるプログラムの導入前と導入後の犯罪の測定指標を検討しているが、これと比較可能な対照条件のないもの
- レベル3:
 - ▶ 実験条件と、それと比較可能な対照条件のもとでの、プログラムの導入前と導入後の犯罪の測定指標を検討しているもの
- レベル4:
 - ▶ 複数の実験・対照単位で、犯罪に影響するその他の変数を統制した上で、プログラムの導入前・後の犯罪の測定指標を検討しているもの
- レベル5:
 - ▶ 実験条件・対照条件への調査単位の無作為な割り当てを行っているもの

出典：Sherman, L. W., D. P. Farrington, et al., Eds. (2002).
Evidence-Based Crime Prevention. London, England, Routledge.

キャンベル協同計画

- “Evidence-based Social Policy”の基盤
 - ▶ 医学における「コクラン協同計画 (“the Cochrane Collaboration”）」に範をとる
 - ▶ 介入効果の評価研究の系統的レビューを実施
- 刑事司法グループ
 - ▶ 米国ペンシルベニア大学ジェリー・リー犯罪学センターに拠点
 - ▶ Wwwサイトはオーストラリア犯罪研究所に設置



<http://www.aic.gov.au/campbellcj/>

登録済みプロトコルの例(犯罪予防関係)

- 薬物に対する法執行戦略
(Mazerolle, 2005)
- 対人犯罪についての対面による修復的司法
(Strang and Sherman, 2004)
- 近隣警戒
(Bennett, Farrington and Holloway, 2003)
- 街頭モニタカメラ
(Welsh and Farrington, 2003)
- 街灯の改善
(Welsh and Farrington, 2003)
- 銃器の不法所有・所持を減らすための警察の戦略
(Koper, 2003)
- 犯罪のホットスポットでの警察活動
(Braga, 2003)

防犯カメラの犯罪防止効果

公共交通機関：矛盾をはらむ結果； 駐車場：有意な犯罪減少効果

Table 3.4: Meta-Analysis of CCTV Evaluations in Public Transport or Car Parks

Evaluation	Odds Ratio
Public Transport	
1. Burrows (1979), Underground	2.58 *
2. Webb and Laycock (1992), Underground	1.32
3. Webb and Laycock (1992), Underground (Oxford Circus)	0.89
4. Grandmaison and Tremblay (1997), Montreal	1.02
ALL 4 STUDIES	1.06
Car Parks	
1. Poyner (1991), Guildford	0.23
2. Tilley (1993b), Hartlepool	1.78 *
3. Tilley (1993b), Bradford	2.67 *
4. Tilley (1993b), Coventry	1.95 *
5. Sarno (1995), Sutton	1.49 *
ALL 5 STUDIES	1.70 *
ALL 18 STUDIES	1.04 *

*p<.05.

Source: Farrington, D. P., and B. C. Welsh. Crime Prevention Effects of Closed Circuit Television: a Systematic Review. Home Office Research Study 252: Home Office Research, Development and Statistics Directorate, 2002.

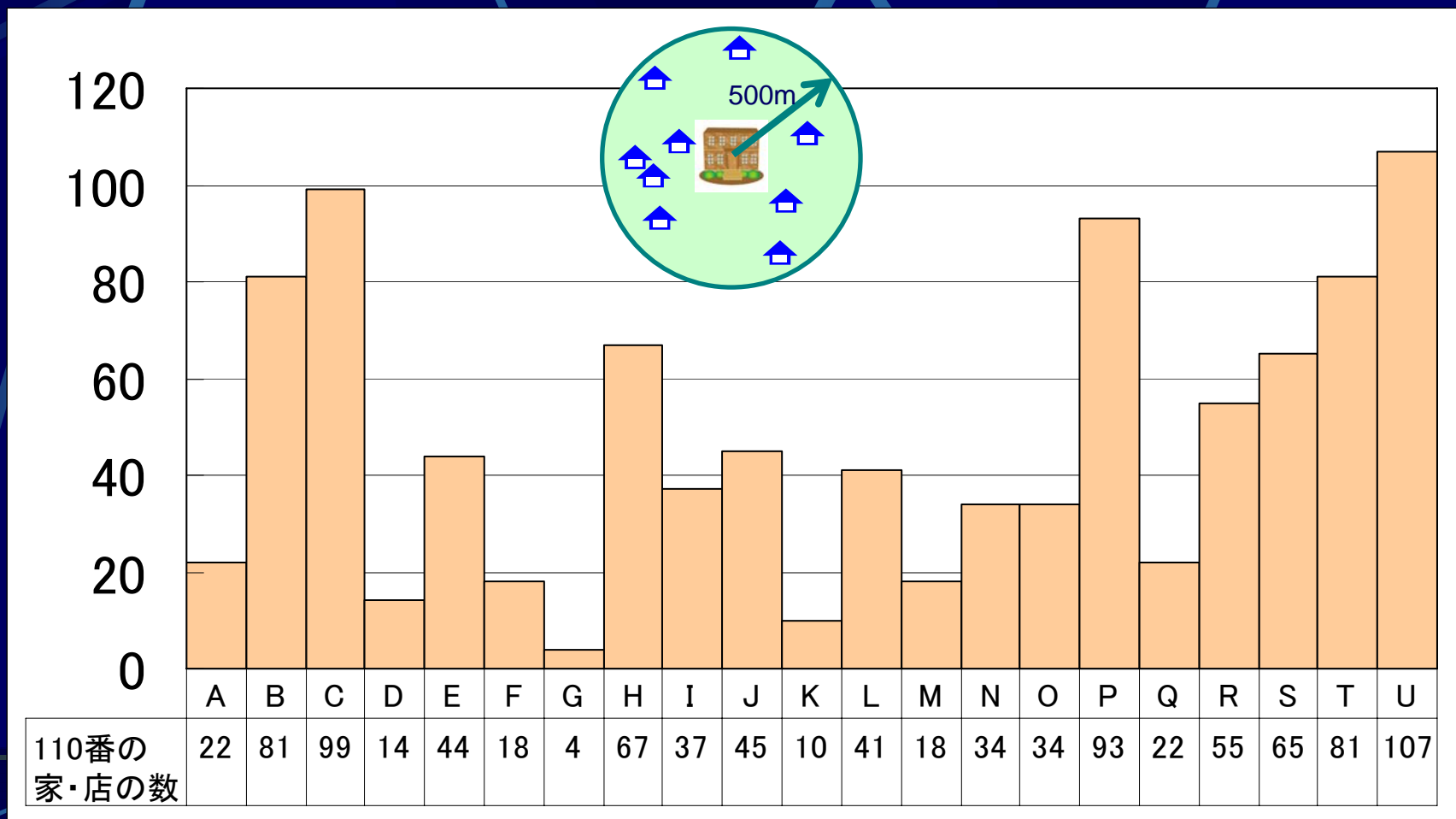
小学校児童殺傷事件：モニタカメラで防げたか？

- 何分間のできことだったか
 - 10:15 犯人が学校へ侵入
 - 10:19 教師が犯人を取り押さえる
- 警察・救急への通報は
 - 10:18 110番通報(教師)
 - 10:20 119番通報(教師・生徒が駆け込んだスーパー)
 - 10:23 警察からの救急車要請
- 警察の「レスポンスタイム」は、平均6～7分
→ 警察が急行しても被害は防げない
- 人命救助のための通報が後手に回った
- 当時はもっぱら「**学校の安全**」・・・今は？

「子ども110番の家」: 行ける所にあるか？

● すきまの発生への懸念

小学校から500メートルの範囲内の「子ども110番の家・店」の数



「被害・危険体験」調査

スクリーニング質問

しつもん9. あなたは、小学校に入学してから今までに、つきのようなできごとに、あったことがありますか。なかった、あったのどちらかに○をつけて、あった人は()のなかに何回あったか数字を書いてください。ただし、

- じぶんの家や学校の中で起こったこと
- じぶんの家の人・親せき・学校の先生・ともだちにされたこと

は書かないでください。○をつけおわったら、お父さん・お母さんにこのページを見せつつ書き書いてもらってください。

できごとの種類	小学校に入学してから これまでに	あった人は このページに
ア. ものやお金をひたつくれたり、むりやり取りあげられたりした(されそうになった)。	なかった・あった () ()	8ページ
イ. ただけたり、ものをぶつけられたり、手や顔をつかまれたり、からだをさわられたりした(されそうになった)。	なかった・あった () ()	9ページ
ウ. ついてこないか、何か買ってあげようか、車に乗らないかなどとさわられたり、どこかへつれて行かれそうになったりした。	なかった・あった () ()	10ページ
エ. 追いかけられたり、髪をつけられたりした。	なかった・あった () ()	11ページ
オ. エッチなことを言われたり、はずかしいものを見せられたりした。	なかった・あった () ()	12ページ
カ. しらないうちに、もちものをぬすまれたり、ぬすまれそうになった。	なかった・あった () ()	13ページ
キ. そのほかの、こわいこと・いやなことをされたり、されそうになった。	なかった・あった () ()	14ページ

保護者の方へ：
(なかった・あった)の答えを見て、
続きを記入してください

すべて 「なかった」	ひとつでも 「あった」
↓	↓
15ページへ	上で指定されたページと地図に すべて記入してから 15ページへ(記入要領参照)

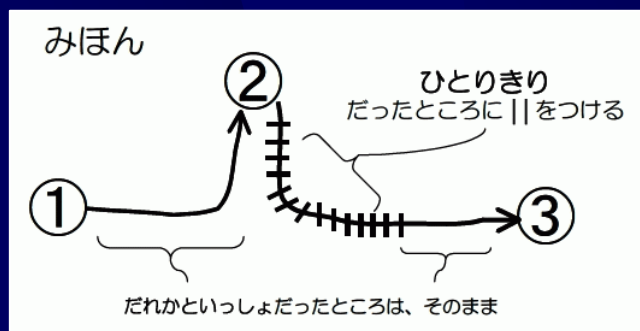
詳細質問

ア. ものやお金をひたつくれたり、むりやり取りあげられたりした(されそうになった)。
そのできごとについて、おしえてください。

	いちばん 最近	2ばんめ	3ばんめ
それがあったのは、.....	□年生の □月ころ	□年生の □月ころ	□年生の □月ころ
その日は、.....	1 2	1 2	1 2
1. 学校のある日 2. 休みの日			
だいたい時間は、.....	□時 □ころ	□時 □ころ	□時 □ころ
だいたいの場所を、「ア1」「ア2」などの印で 地図のうえに書いてください。.....	ア1	ア2	ア3
その場所は、どのようなところですか。.....	1 2 3 4 5 6 (7:)	1 2 3 4 5 6 (7:)	1 2 3 4 5 6 (7:)
1. 公園のなか 2. 駐車場、自転車置き場 3. 駅やお店のなか 4. バスや電車のなか 5. 空き地 6. 道路 7. その他			
そのとき、だれかといっしょにいましたか。.....	1 2 3 4 (5:)	1 2 3 4 (5:)	1 2 3 4 (5:)
1. いなかった 2. 友だち 3. おうちの人 4. そのほかの大人 5. その他			
そのできごとは、どのようなことでしたか。.....	1 2 3 4 (5:)	1 2 3 4 (5:)	1 2 3 4 (5:)
1. ものやお金をひたつくれた 2. おどかされて、ものやお金を取りあげられた 3. 力ずくで、ものやお金を取りあげられた 4. 何人かで取りこまれて、お金を出せといわれた 5. その他.....(ことばで書いてください。→)			
そのとき、あなたはどうしましたか。(あてはまる番号 をぜんぶ書いてください。).....	1 2 3 4 (5:)	1 2 3 4 (5:)	1 2 3 4 (5:)
1. 何もしなかった・できなかった 2. 大声で助けを呼んだ 3. 走ってにげた 4. ぼうはんブザーやベルを鳴らした 5. その他.....(ことばで書いてください。→)			
【保護者の方にご記入ください】この出来事について、学校やPTA、ご近所の方などに連絡や相談をなさいましたか。当てはまる番号をすべてお書きください。).....	1 2 3 4 5 6 7	1 2 3 4 5 6 7	1 2 3 4 5 6 7
1. 担任の先生など学校に連絡・相談した 2. 近所の人に話した 3. PTAの関係者に連絡・相談した 4. 警察に通報した 5. 自分の親や兄弟・親戚に連絡・相談した 6. 誰にも連絡・相談しなかった 7. 今回初めて知った。			

行動圏調査

- 直近の平日について、放課後の行動の経路を時系列的に尋ねる
- 白地図に番号+矢印線で記入
- 1人だった所にマーキング



しつもん1. きょう(この紙がくばられた日)、学校が終わった後、どこで何をしましたか。
学校を出てから、とおった道や、行った場所を、じゅんばんに表と地図にかいてください。
いったん家にかえってから、外に出かけた人は、そのことも書いてください。
答えるときは、お父さん・お母さんに手伝ってもらってください。

保護者の方へ：お子さんの放課後の行き先についておたずねします。

- 添付の大きな地図に、お子様が学校を出てからどこを通ったかを線で、目的地(自宅や他の場所)を①、②、③・・・の番号で、それぞれ書き入れてください。
- 下の表には、目的地へ着いた時刻を()内に数字で記入し、それ以外のらんの番号に○をしてください。
目的地が自宅以外の場所だった場合には、「そのばしょは? (場所の種類)」と「どのくらいいく? (ふだんどれくらい立ち寄るか)」のらんにも記入してください。
- 帰宅後に外出した場合を含めて、その日、最後に帰宅するまで続けてください。
記入らんが余った場合は、残りは空白でかまいません。
- 詳しくは、記入要領(別冊)4~5ページをご覧ください。

学校を出て

どこをとったか、ちずに↓でかきこむ

なんじごろ?	だれかといっしょ?	どうやって?	どこに?	ちずにばんごうをかきこむ
じ ぶん ()時()分	1. ひとり 2. 友だちと 3. おとなと 4. 友だち・おとなと	1. あるいて 2. じてんしゃで 3. バス・でんしゃで 4. じどうしゃで	1. いえについた 2. ベつのはしょについた	①
			そのばしょは?	どのくらいいく?
			1. こうえん・ひろば 2. ともだちのいえ 3. おみせ・かいもの 4. じゅく・ならいごと 5. その他	1. まいにち行く 2. 2日に1回くらい 3. しゅうに1回くらい 4. 月に1回くらい 5. はじめて行った

どこをとったか、ちずに↓でかきこむ

なんじごろ?	だれかといっしょ?	どうやって?	どこに?	ちずにばんごうをかきこむ
じ ぶん ()時()分	1. ひとり 2. 友だちと 3. おとなと 4. 友だち・おとなと	1. あるいて 2. じてんしゃで 3. バス・でんしゃで 4. じどうしゃで	1. いえについた 2. ベつのはしょについた	②
			そのばしょは?	どのくらいいく?
			1. こうえん・ひろば 2. ともだちのいえ 3. おみせ・かいもの 4. じゅく・ならいごと 5. その他	1. まいにち行く 2. 2日に1回くらい 3. しゅうに1回くらい 4. 月に1回くらい 5. はじめて行った

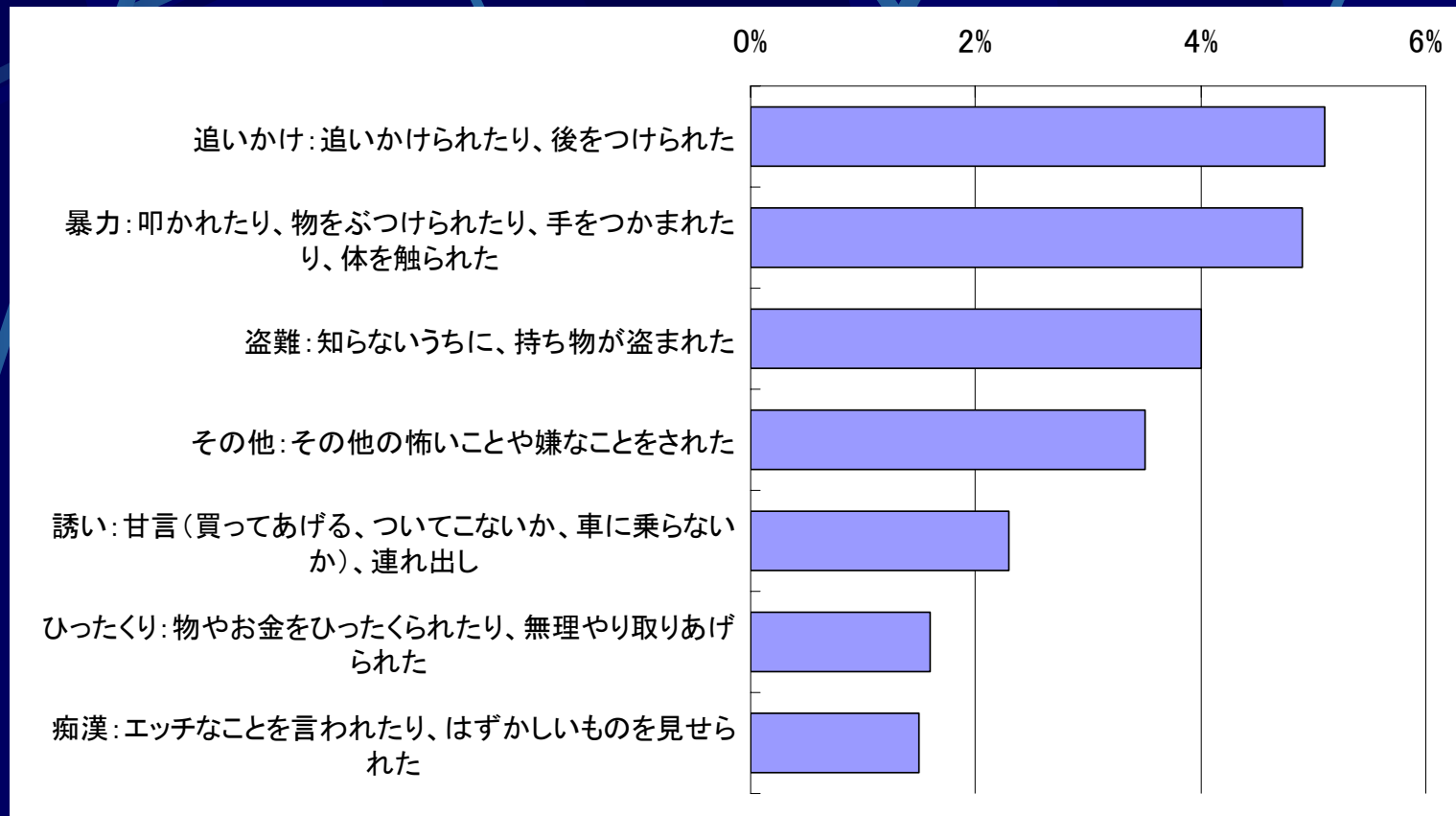
どこをとったか、ちずに↓でかきこむ

-A-2-

調査結果から：類型別被害率 (小学校入学時以降延べ)

被害率

被害類型

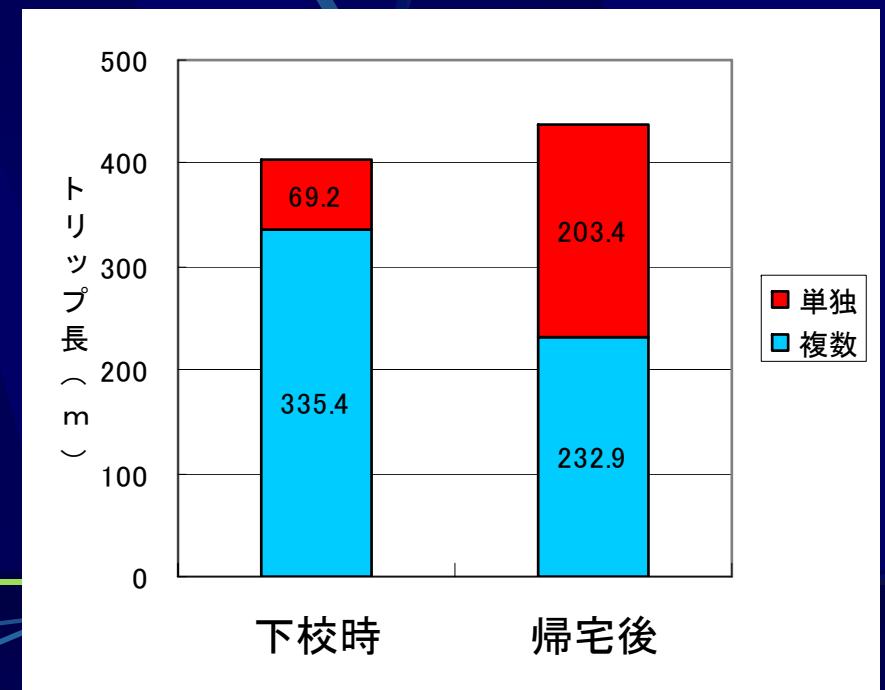
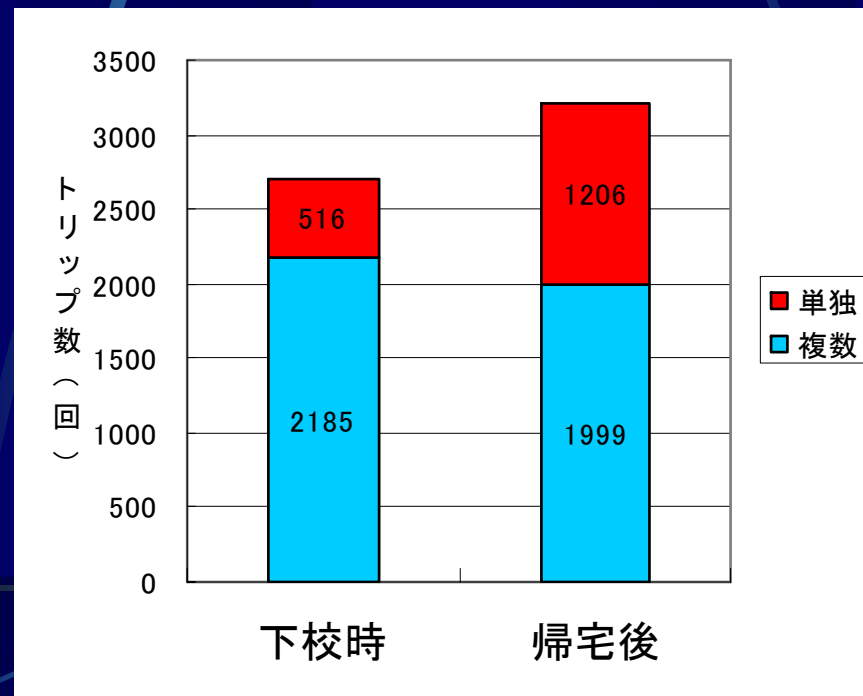


● 1～2割程度の児童が経験

● 「子どもの犯罪被害」のイメージと必ずしも一致しない？

下校時と帰宅後外出

- 下校時と、帰宅してからの外出を比較
 - トリップ数(2,701 対 3,205)
 - トリップ長(404m 対 436m)
 - 単独行動の割合増える
- 下校時に特化した現行防犯活動の問題点示唆



これからの防犯対策のために

- 外国のモノマネは不可
 - 犯罪は社会現象。
 - 法律・制度・文化などの異なる外国での知見の直輸入は危険。
- 「わが国では何が有効か」を検証
 - 欧米で有効性が示されたものを手始めに、
 - (施策実施地区・対照地区) × (事前・事後) のデザインによる、
 - 実証的評価研究を実施。

参考文献

- 原田豊・島田貴仁「クرائم・マッピング — 地理的犯罪分析の現状と方向性」(9回の連載), 捜査研究, 619号~629号, 2003~2004.
- 原田 豊「都市の治安と犯罪地図」, 都市問題, 94巻9号, 3-19頁, 2003.
- 島田貴仁・原田豊「WWWによる犯罪地図の公開」, GIS学会講演論文集, 12号, 127-130頁, 2003.
- 原田豊「根拠に基づく犯罪予防」(1)~(3), 警察学論集, 56-9: 68-80ページ・56-12: 22-138ページ・57-1: 188-207ページ, 2003~2004.
- 原田豊「犯罪予防論の動向: 発達の犯罪予防と状況的犯罪予防」, 警察学論集, 59巻6号, 69-97頁, 2006.

問い合わせ・連絡先:

科学警察研究所 犯罪行動科学部 犯罪予防研究室

04-7135-8001(内)2641(犯罪予防研究室)

harada@nrips.go.jp; takajin@nrips.go.jp; saitoht@nrips.go.jp